

第1学年 国語科学習指導案

児童 第1学年 男14名 女13名
指導者 澤口悦子

1 単元名 くらべてよもう
教材名 じどう車くらべ

2 教材について

(1) 児童について

児童は、1学期に「いろいろなくちばし」という説明文を学習している。鳥のくちばしの特徴を記したこの文章で、児童は、説明されている事柄を正確に読み取ることを学ぶとともに、説明文の基本的なパターンである「問い→答え」と、その文型を学んだ。クイズやなぞなぞなどの問いから答えを導く活動は、児童が好きなこともあり、この説明文でも意欲的に問いと答えを見つけることができ、文章構成に気付くことができた。さらに、くちばしの特徴や働きなどを理解することができ、他の鳥についても本で調べようとする意欲も深まった。

家庭学習では、カードや丸十個音読（10回読んだらシール）を用いて、教科書の音読を毎日取り組んでいる。また、視写もほぼ毎日取り組んでいて、文意識は育ってきている。

事前テストの結果を見ると、問いの文を見つけることができた児童がほとんどだったが、句読点に気をつけて視写をすることができていない児童もいた。問いに対する答えを見つける問題はできない児童が多かった。文を読むことはできても、読んだ内容をイメージしながら考える力はまだ育っていないことがうかがえる。また、文をそのまま抜き出すのではなく自分の言葉にして書くことにはかなり抵抗があるようである。

(2) 教材について

本単元における「読むこと」の主な指導事項は、「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」（読むことイ）である。

本教材「じどう車くらべ」は、この時期の児童の興味・関心の対象として代表的なものの一つである自動車を取り上げた説明文である。一文が短く、主語と述語が照応しているため、内容を読み取りやすい文章である。説明のしかたは、「話題・問題提起→問題に対する説明」を自動車の「しごと」と「つくり」という二つの事柄の因果関係で述べる形をとっている。「つくり」の書き出しは、全て「そのために」という言葉で始まっており、構成が分かりやすい教材である。身近な自動車について、同じ形の説明が繰り返されることで、「しごと」と「つくり」の因果関係に気づき、自動車に対する新しい見方を身につけることができる。本文の冒頭で、自動車について、「しごと」と「つくり」を読者に問いかけてあり、読みのめあてを明確に持って学習に取り組むことができる。

興味が持てる身近な題材で、主体的な理解・表現活動を促す教材構成である。この教材の学習を通して、児童は、楽しい説明文の読みを体得すると同時に、確かな言語能力を身につけることができると考える。さらに、「じどう車ずかんをつくろう」という目的のもと、学んだことをいかして、調べたり表現したりする学習活動に発展できる教材である。

(3) 指導について

低学年の説明文の読みは、書かれていることの大体を読み取り、表現の仕方(順序)を理解することである。そのために、家庭との連携を図りながら、しっかりと読めるよう繰り返し音読させたい。音読することで内容を理解し、内容が分かることでまた楽しく読むことができる。音読を授業の中で評価し、生かしていきたい。

第一の段落の「どんなしごとをしていますか。」「どんなつくりになっていますか。」の二つの問題提起(問い)をとらえさせ、読みの視点としていきたい。さらに、「そのために」という言葉をおさえ、問題提起と対応させながら「しごと」と「つくり」に着目して読み進めていきたい。

また、この文章は、「そのために」「～のように」などの条件や理由を表す言葉を用いて表現することで「しごと」と「つくり」の関係が明確になっている。全文視写をすることで、文章の構成やまとまりをつなぐ言葉などに気が付き理解させることができる。家庭学習でしてきた視写を授業で生かして授業を進めたい。

指導要領改訂で示されている「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」(読むことオ)に関連して、単位時間内にそれぞれのじどう車のつくりの特徴を既存の知識や経験と結び付けて発表し、学び合う活動を取り入れたい。さらに、広げる過程では、自分が調べた自動車について自動車図鑑としてまとめる活動を取り入れ、発表したり感想を伝え合ったりさせたい。

関連図書を教室に準備し、言語活動例で示されているような「事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」ができる学習環境を整え、読書に親しませ、文章を読む意欲を高めるようにしたい。

(4) 家庭学習と授業とのつながりについて

つかむ	音読(カード・丸十個音読) ↓		
深める		視写 関連図書の読書	授業作文
広げる		関連図書の読書	じどう車図鑑作り

◎保護者と連携を図り、正しい視写ができるようにさせたい。

3 単元目標

(1) 関心・意欲・態度の目標

- ・自動車の仕事とつくりの関係に興味をもち、進んで読み取ろうとする。

(2) 能力の目標

◎3種類の自動車について、仕事とつくりの関係を考えながら内容の大体を読むことができる。 (読むことイ)

○教材文を参考にして、簡単な組み立てを考えて好きな自動車の仕事とつくりを説明する文を書くことができる。 (書くことウ)

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する目標

- ・敬体で書かれた文章に慣れることができる。(言葉の特徴やきまりに関する事項イ(キ))
- ・片仮名で書く語を読んだり書いたりする。(言葉の特徴やきまりに関する事項ウ(ア))

4 単元の指導・評価計画(8時間)

過程	時	学習活動(指導内容)	評価規準		
			国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・題名想起する。 ・全文を読み、感想をもつ。 ・新出漢字や片仮名の書き方を練習する。 	車に対する既存の知識を進んで発表しようとしている。	教材文について、もっと知りたいこと、疑問などを書いている。	新出漢字や片仮名を丁寧に練習している。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提示について読み取り、学習の見通しをもつ。 ・学習のゴールが、自動車図鑑づくりであることを知らせる。 	教材文学習後、「自動車図鑑」を作ることに関心を持っている。	教材文の視点(仕事とつくり)をつかんでいる。	文末表現から、問題文をとらえている。
深める	1	<ul style="list-style-type: none"> ・バスと乗用車の仕事とつくりの関係を読み取る。 	バスと乗用車の仕事とつくりについて進んで読み取ろうとしている。	バスと乗用車の仕事とつくりを読み取っている。	「～は～しています。」と「そのために、～あります。」の文型をとらえている。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・トラックの仕事とつくりの関係を読み取る。 	トラックの仕事とつくりについて進んで読み取ろうとしている。	トラックの仕事とつくりを読み取っている。	片仮名を正しく読み書きしている。
	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・クレーン車の仕事とつくりの関係を読み取る。 	クレーン車の仕事とつくりについて進んで読み取ろうとしている。	クレーン車の仕事とつくりを読み取っている。	「じょうぶな」「しっかりした」の言葉の意味を正しくとらえている。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・はしご車の仕事とつくりについて説明する文を書く。 	はしご車の説明文を進んで書こうとしている。	(以下、書く能力) 教材文に習って、はしご車の説明文を書いている。	「～は～しています。」と「そのために、～あります。」の文型をとらえている。
広める	2	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り物の本などを読む。 ・自分の好きな自動車の仕事とつくりについて説明する文を書く。絵も書き図鑑を作る。 	自分が好きな自動車の図鑑を進んで作っている。	自分の好きな自動車の情報を集め、その自動車の仕事とつくりの説明文を書いている。	語と語、文と文の続き方を考えて敬体の文章を書いている。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「自動車図鑑」を読み合う。 	自分が作った図鑑を進んで発表し、友だちの図鑑もじっくり聞こうとしている。		質問や感想を話すときに、敬体に気をつけている。

5 教材分析

言語事項	〈接続語〉 そのために、 〈重要語句〉 これは、 〈文末表現〉 ～です。でしょう。～ます。
話の順序	① どんなしごとをしているか。どんなつくりになっているか。 ② バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶしごとをしている。 ざせきのところがひろい。大きなまどがたくさんある。 ③ トラックは、にもつをはこぶしごとをしている。 ひろいにだいがある。おもいにもつをのせるトラックには、タイヤがたくさんある。 ④ クレーン車は、おもいものをつりあげるしごとをしている。 じょうぶなうでがのびたりうごいたりする。しっかりしたあしもついている。 ⑤ はしご車のしごととつくりをしらべよう。
文章構成	問いかけ ① 答え・説明Ⅰ ② 答え・説明Ⅱ ③ 答え・説明Ⅲ ④
発 展	教材文を参考にして、ほかのじどう車の説明文を書き、「じどう車ずかん」を作る。また、それを発表したり感想を伝え合ったりする。

6 本時の指導

(1)ねらい

クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。

(2)展開

	学習内容・学習活動	・教師の働きかけ 「主発問」 ○評価(評価方法) ●家庭学習を生かした働きかけ
つかむ3分	1 前時までの学習を想起する。	●授業作文を紹介し、本時の学習に生かすようにする。 ・本時は、自動車図鑑3ページ目となるクレーン車の仕事とつくりを調べることを確認し、意欲を持たせる。
	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">クレーン車のしごととつくりをしらべよう。</div>	
	3 学習範囲を音読する。 (一斉→指名読み) 4 問題を解決する。 (1)「しごと」「つくり」が書いてあるところに線を引く。 (しごと→赤、つくり→青) 【一人学び】	●家庭学習で取り組んでいる音読の成果を認めるようにする。 ●家庭学習でしてきた視写にサイドラインを引かせる。 ・「しごと」→そのために→「つくり」という文章構成になっていることに気付かせる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">深 め る 4 0 分</p>	<p>(2)クレーン車の「しごと」と「つくり」を確かめる。 【収束する学び合い(全体)】 しごと→おもいものをつりあげるしごと つくり→のびたりうごいたりするうで じょうぶなあし</p> <p>(3)クレーン車の「しごと」と「つくり」を詳しく読み取る。 ①「しごと」について詳しく読む。 【広げる学び合い(全体)】 ②「つくり」のついて詳しく読む。 【収束する学び合い(全体)】</p> <p>(4)クレーン車の自慢話を書いて、クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめる。 【一人学び】</p>	<p>「クレーン車のしごとがかいている文に赤線を引きましょう。」 「クレーン車のつくりがかいている文に青線を引きましょう。」 ○前時までの学習を生かして、サイドラインが引けたか。(学習プリントへのサイドライン)</p> <p>「クレーン車は、どんなしごとをしていますか。」 「クレーン車は、どのようなつくりになっていますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもには、(1)の一人学びを生かし文で発表させるが、板書は短く必要な語句だけを書く。 <p>「クレーン車はどんなものをつりあげるのでしょうか。」 ・「つりあげる」という言葉を確認する。</p> <p>「クレーン車の腕は、どこでしょう。どのように動かすのでしょうか。」 「クレーン車の足は、どこでしょう。どのようにしていますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 腕や足を挿絵で確認する。 実際に自分の腕や足を使って表現させる。 <p>「クレーン車の自慢話を書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> クレーン車の仕事、つくりの両方を書くよう働きかける。 挿絵から気づいたことや既存の知識についても書くように働きかける。
--	---	--

<p>(5)クレーン車の自慢話を発表し合う。 【深める学び合い(全体)】</p>	<p>〈評価〉</p> <p>A クレーン車の「しごと」と「つくり」を関連付けて、自慢話を書くことができる。さらに、挿絵や既存の知識についても書き加えることができる。</p> <p>B クレーン車の「しごと」と教材文に書かれている「つくり」をとらえて、自慢話を書くことができる。</p> <p>C サイドラインを手掛かりに「しごと」や「つくり」を確認させ、自慢話を書かせる。</p> <p>・一人ひとりの発表のよさを認めるようにする。 ・発表会にならないよう、相互評価をさせながら学び合う場にしたい。</p> <p>○クレーン車の「仕事」や「つくり」に着目して、自慢話を発表することができたか。(発表)</p>
<p>まとめる(2分)</p> <p>6 学習のまとめをする。 (1) 学習を振り返る。 (2) 学習した範囲を音読する。</p>	<p>・読み取ったことを意識しながら音読できるようにする。</p> <p>●本時の学習を授業作文にまとめてくるよう指示する。</p>

(3)板書計画

教科書
95ページ
の文

つくり
(色カード)

そのために

しごと
(色カード)

③ クレーン車のしごとと つくりを まとめよう。



えっへん、
ぼくはね、

じょうぶなうでがのびたりうごいたりする。
しっかりしたあしがついている。